瀬戸山美咲＝作
大谷賢治郎＝演出

行きたい場所をどうぞ

秋田雨雀・土方与志 記念
青年劇場

一歩踏み出したら何かが起こる
夢を探しに行きませんか

秋田雨雀・土方与志 記念
青年劇場

〒160-0022
東京都新宿区新宿 2-9-20 問川ビル 4F

TEL 03-3352-6990
FAX 03-3352-9418
E-mail info@seinengekijo.co.jp
HP https://www.seinengekijo.co.jp

作家　瀬戸山美咲

みんなが自由に生きられる社会のために

瀬戸山 美咲
Misaki Setoyama

1977年東京都出身。劇作家・演出家・ミナモザ主宰。読売演劇大賞優秀作品賞・優秀演出家賞、第70回芸術選奨文部科学大臣賞新人賞など数多くの賞を受賞。近作に「ザ・ビューティフル・ゲーム」（上演台本・演出）、「スラムドッグ$ミリオネア」（上演台本・作詞・演出）、「彼女を笑う人がいても」（作）、「ペーター・ストックマン」（翻案・演出）など。2022年日本劇作家協会の会長に就任し、次世代を担う劇作家として注目を集めている。青年劇場では「オールライト」で作、「梅子とよっちゃん」で演出を手がけている。

「ロボット」という言葉は劇作家カレル・チャペックがつくりました。語源となったチェコ語には「強制労働」という意味があります。今では元の意味は忘れられ、スマホのAIから掃除機まで、ロボットは身近な友達のような存在になりつつあります。しかし、昔も今もロボットが人間の命令したことを従順に遂行する存在であることは変わりありません。ですから、フィクションでロボットを描くと、どうしたって人間が命令したいこと＝人間の欲望を描くことになります。

この演劇は人間の女の子とロボットの女の子が、「ネラ」という未知の場所を目指してふたりで旅をする物語です。一見牧歌的でもありますが、ふたりの立場は明確に違って、どこか緊張した空気も漂っています。主人公は、ロボットを人間と同じように感じるようになるにつれ、自分は搾取していないか、傷つけていないかと気になり始めます。ロボットに搭載されていない能力があれば、自然とそれを補わなければと思い始めます。

これはそのまま、人間同士の関係に当てはまります。人はみな違う環境で生まれてきます。みんな同じ肉体を持ち、同じ時代に同じ場所でスタートというわけにはいきません。異なるアイデンティティを持った人たちが集まって社会を形成していくのです。それはときとしてうまくいかないため、「こんなんだったら一人のほうがましだ」と閉じこもってしまう人もいます。また、「こんなんだったら一色に塗りつぶしたい」と思って、周りに自分の価値観を押し付けてしまう人もいます。

この芝居は、どうしたら自分のこともほかの人のことも尊重しながら、共存していけるかを考える芝居です。また、今、ロボットのように指示を待って動けない子どもがいたら、あなたにはあなたが行きたい場所に行ってもよいよと伝える芝居でもあります。そして、そのためには人に頼っていい。私たちが集まって生きているのは、誰かの自由を制限するためではなく、助け合ったほうがみんな自由に生きられるから。そんな社会をつくっていくために、若いみなさんにこの芝居を体験して一緒に考えてもらえたらと思います。

演出　大谷賢治郎

演劇の力を信じて

大谷 賢治郎
Kenjiro Otani

1972年東京都出身。サンフランシスコ州立大学芸術学部演劇学科卒。2017年から2021年まで約4年間、アシテジ国際児童青少年舞台芸術協会の世界理事を務め、国際的な児童青少年のための舞台芸術の発展のために力を注ぐ。現在、桐朋学園芸術短期大学特任准教授、東京藝術大学非常勤講師、東京都立芸術総合高等学校特別専門講師を務める。青年劇場では、小劇場企画「動員挿話／骸骨の舞跳」で初演出。以降、「原理日本」、「宣伝」、「鮮やかな朝」、「豚と真珠湾―幻の八重山共和国」で演出を手がけている。

コロナ禍を経て、若者たちの未来への不安は増していることでしょう。また日常生活に於いても友人たちとの交流がままならなかった日々を過ごしてきたことと思います。そんな彼らにとって少しでも心の支えになってほしいという願いとともにこの作品を創造いたしました。

やりたいことが未だ見つからない生徒もいるでしょうし、やりたいことが見つかっていてもそれが本当に可能なのかわからない生徒もいるでしょう。そんな一人一人に「焦らなくても大丈夫」と伝えることができたらなと思います。

演劇はファンタジーです。現実の中に起きる不安もファンタジー経由で見ることで共感に繋がります。例えば現実の中で孤独を感じていても、ファンタジーの中に孤独を感じている人を見出し、ふと自分だけではないんだと言った安心に繋がったりします。もしくは現実の中では冒険することに躊躇をしていても冒険している人を（もしくはロボットを）ファンタジーの中に見出し、勇気をもらうことにも繋がります。
僕はそんな演劇の力を信じ、若者の心の糧になればと思っています。

「行きたい場所をどうぞ」
行きたい場所が見つかりますように
見つからなくとも焦ることなく
もし行きたい場所が見つかればそれを分かち合える誰かを見つけるもよし
もし行きたい場所を見つけた人に出会ったら、その人の行きたい場所に一緒に行くのもよし

そんな思いが一人でも多くの若者たちに届けられますように。

登場人物

夕凪（ゆうなぎ） / 光莉（ひかり） / サラリーマン / 清掃員 / 男子高校生 / 駅長 / おじいさん / 大南（おおなみ）
青嵐（あおあらし） / 鈴 / 野分（のわき） / やませ / 辰巳 / いぶき / パパル

スタッフ

作＝瀬戸山美咲 / 演出＝大谷賢治郎

美術＝池田ともゆき / 照明＝松浦みどり / 音楽＝青柳拓次 / 音響効果＝坂口野花 / 衣裳＝宮岡増枝
演出助手＝矢野貴大 / 舞台監督＝青木幹友 / 宣伝美術＝柴崎涼葉 / 製作＝白木匡子・久保田敬博

あらすじ

近未来のとある街の駅。
待ち合わせ広場に設置された道案内用のAIロボット・夕凪（ゆうなぎ）は、この街のことなら何でも知っている。一方、この街に引っ越してきたばかりの女子高生・光莉（ひかり）は母親の束縛や進路のことなどを苦しく感じているが、「自分で考えること」も「悩むこと」もあきらめてしまっていた。
ある日、光莉が《ネラ》に行きたいと言ってきた。データにもなく、検索しても引っかからないその場所はいったいどこにあるのだろう…。廃棄の危機に晒されている夕凪は、《ネラ》の情報を得て自分をアップデートしたい。
「一緒に行きましょう！！」
《ネラ》を探そうと光莉を連れ出した夕凪は、バックパッカーの旅人と出会い、あるワイン農園にたどり着く。そこで「健康で文化的な生活」を求めて立て籠るロボットたちと遭遇する…。

短い旅の中で、自分たちの持っている力を最大限に使って、社会と向き合い、互いを助け、日常の少し外側へ踏み出す一人と一体。果たして《ネラ》は見つかるのだろうか？
光莉にとって、本当の“行きたい場所”とは…。

オープニング

光莉と夕凪の出会い

働くロボット・野分とやませとの出会い
in ワイン農園

旅人・鈴との出会い
in 慶龍の滝

撮影：宿谷祓

一歩踏み出したら何かが起こる
夢を探しに行きませんか

この作品は「人生の選択」というテーマから生まれた物語です。
近年「主体的に生きることが怖い。やりたいことが見つからない」という悩みを抱えている若者が増えているように感じられます。
「行きたい場所をどうぞ」は、無気力で何ごとも諦めがちだった高校生の光莉が、駅で道案内をするAIロボットの夕凪と旅をし、様々な価値観と出会うことで「自分で選び、自分らしく生きること」をみつけていく物語です。たくさんの出会いの中で成長する光莉と夕凪。「一歩でも前に踏み出したら何かが起こる！」ということを今を生きる子どもたちと一緒に考えていきたいと思います。
脚本家・瀬戸山美咲さんの紡ぐ柔らかくも鋭いセリフの数々には「あなたはどこにでもいける。自分の可能性をあきらめないで」というエールが込められています。そして、この作品をテンポよくスタイリッシュに纏め上げた大谷賢治郎さんの演出にもご期待ください。

青年劇場はこんな劇団です

青少年に寄り添って60年

青年劇場は1964年、秋田雨雀（あきたうじゃく）と土方与志（ひじかたよし）に教えを受けた8人の俳優・演出家によって結成された劇団です。
年間2～3回の定例公演・スタジオ公演を東京で行い、社会問題に鋭く切り込む創作劇を始めとして、海外戯曲など多様な作品を上演しています。また劇団結成当初より、青少年に向けた演劇作品を全国で上演することを、大きな柱の一つとして精力的に活動しています。「優れた演劇を青少年に！」を掛け声に、絶えず変化する青少年を取り巻く問題と向き合い、彼らに寄り添う創作劇を数多く生み出しています。
「夜の笑い」（飯沢匡＝作・演出）の公演成果と「かげの砦」（小寺隆韶＝作、堀口始＝演出）の青少年劇場巡回公演への評価により第13回紀伊國屋演劇賞団体賞を受賞。その他の作品でも厚生省中央児童福祉審議会児童福祉文化賞（厚生大臣賞）・東京都優秀児童演劇選定優秀賞（東京都教育委員会賞、日本演劇協会賞、都民劇場賞）をはじめとした数多くの賞を受賞するなど高い評価を得ています。
また俳優養成にも力を入れており、付属養成所は現在（2023年4月）までに52期を数え、劇団の所属俳優の半数以上が付属養成所の出身者です。

「演劇の力」を社会へ還元する活動

公演活動の他にも、演劇部等への講師派遣、各地の中学・高校演劇大会の審査員などでは多くの劇団員が活躍しています。また、劇団の培ってきた「演劇の力」を社会へ還元する活動として、文化庁の委託事業である中学生を対象にした演劇体験プログラム「地域文化倶楽部」、公立文化施設主催のまちづくり事業における市民向けワークショップなどを実施。加えて、障害を抱えたり、生きづらさを抱えている若者の心の解放と自立に寄与する社会包摂活動にも新たな活動の柱の一つとして積極的に取り組んでいます。

地域文化倶楽部

これまでの主な全国巡演作品

「翼をください」
（ジェームス三木＝作・演出）

「修学旅行」
（畑澤聖悟＝作 藤井ごう＝演出）

「博士の愛した数式」
（小川洋子＝作 福山啓子＝演出）

「オールライト」
（瀬戸山美咲＝作 藤井ごう＝演出）

「きみはいくさに征ったけれど」
（大西弘記＝作 関根信一＝演出）

「あの夏の絵」
（福山啓子＝作・演出）

「オールライト」（撮影：V-WAVE）

「あの夏の絵」（撮影：宿谷誠）

「きみはいくさに征ったけれど」（体育館仕込みの様子）